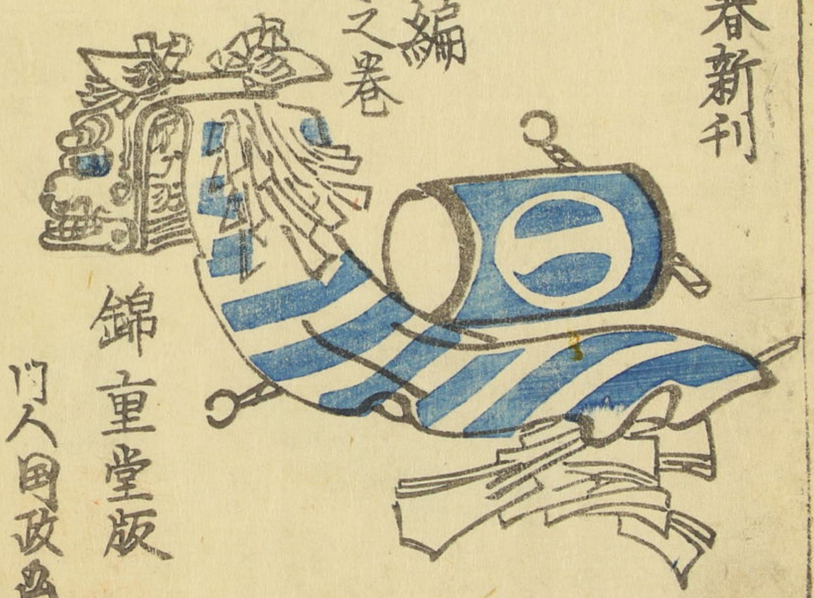
へ 13
3749
7

門へ13
號 3749
巻 7

釋迦八相倭文庫

十三編
上之巻

己酉春新刊



万亭應賀作
一陽齋豊國画

錦重堂版
門人国政画

釋迦八相倭文庫拾三編之叙

此巻ハ耶輸陀羅女太子の御子羅睺羅と産無実の罪ゆ
落身ゑ牢獄ゆ沈こて観世音と信ど悉達太子の瞿曇
法弥檀特山ゆ法山領ゆて苦新の難行苦ゑと霊夢ゆ見給
不思議ゆ月景殿の老女の南花園ゆ隊ゆ悪逆露顕ゆ及ひ本
妖鬼子母の力とあらゆ魔術を施して如毘羅城を立退
ゑ書のかゆゆ和らぐ倭文庫拾三編を
ゑんくとことしやくせん狡と責まて〻拙巳の夜ゑ
所業ゆ忘けがゆらり眼ゑ過て筆の疎忽も多かるべれ
ど盛覧諸君ゆ和解曰ゆるゑん。

弘化二年巳酉
孟陽新梓發行

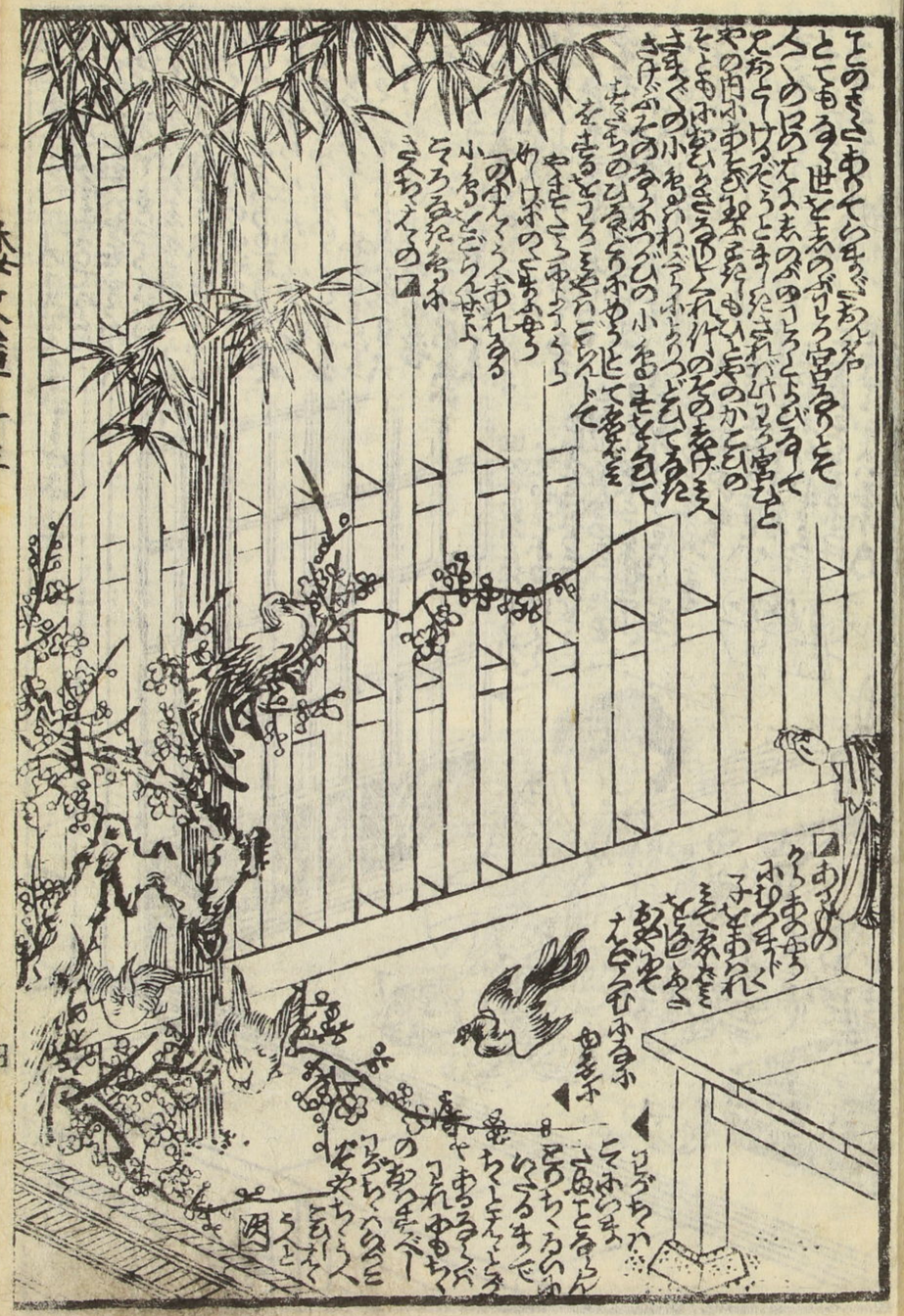
万亭應賀誌

耶輸陀羅女
獄屋のうちゆて
観世音の利益
ふようて悉達太
子檀特山ゆて
難行の霊夢
を見る
悉達太子
悉達太子の若宮
後ハ羅睺羅
尊者

耶輸陀羅女

月景殿の老女官南花女実は圓満長老
茶丈の妻本名鬼子母
叛逆露顕して加賀白山へ逃去る

右林八士太郎



嘉永四亥年春新板目録

奥奉公娘一代成人双六　二編　万亭應賀作　一陽齋豊國画
倭文庫太子双六　万亭應賀作　一陽齋豊國画
武藝立身館双六　万亭應賀作　一陽齋豊國画
奥奉公出世双六　万亭應賀作　一陽齋豊國画
神代藻塩草　二編　万亭應賀作　一陽齋豊國画
日蓮記旭衣　二編　万亭應賀作　一勇齋國芳画

倭文庫拾三編

万亭應賀作

一陽齋豐國画

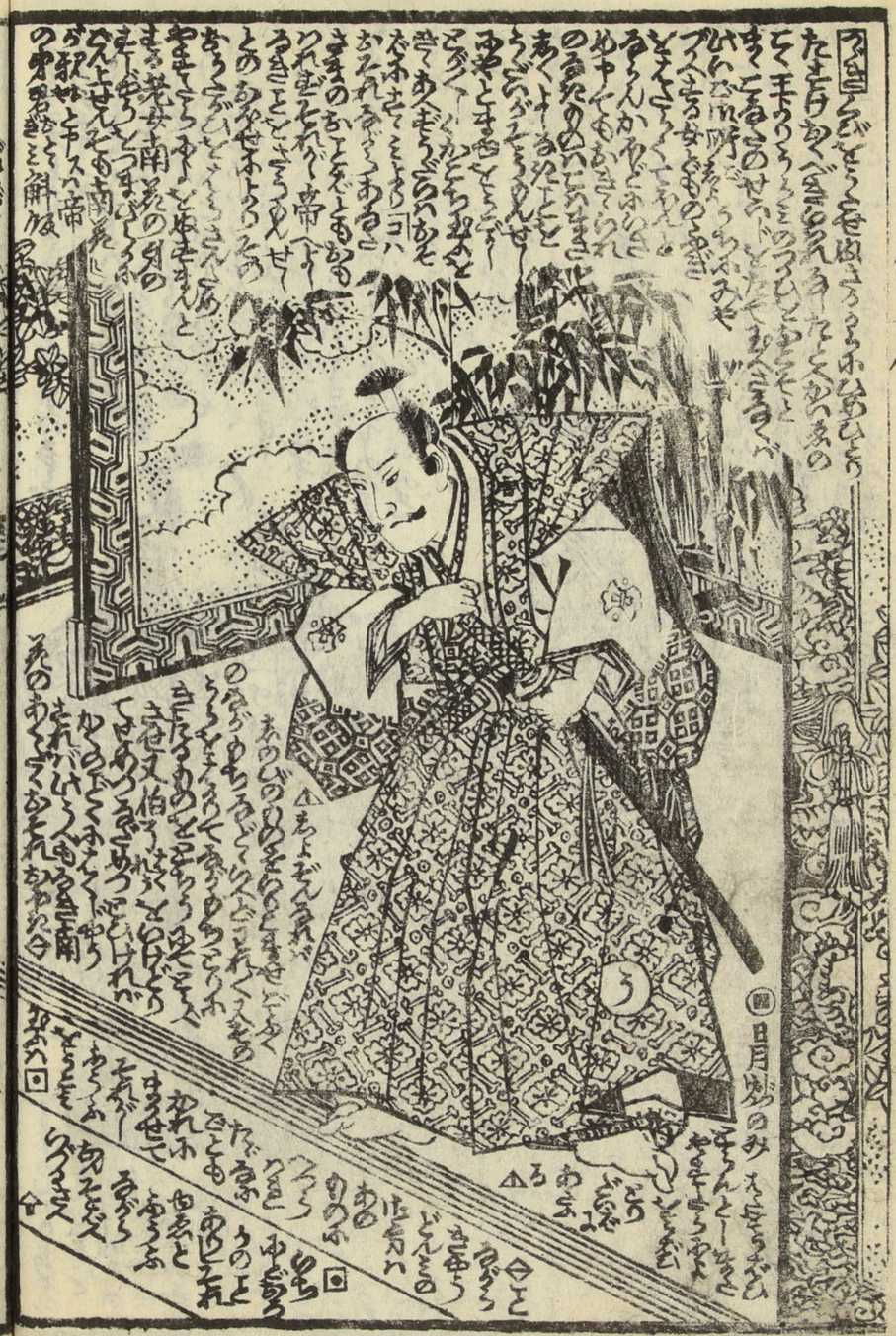
下

仏説盂蘭盆経

十二編下の巻

慶賀化
壹國画

己酉春
新梓
元大坂町代地
發行
上州屋重藏板



南
右

万亭應賀作 一陽齋豐國画

釋迦八相倭文庫 六編 万亭應賀作
奥奉公出世繪合 廿編 一陽齋豐國画
倭文庫太子雙六 應賀作
忠義教誡赤松譚 六編 七編 如淵外史作 一陽齋豐國画

金繪草紙錦繪本類 元大坂町代地南 上州屋重藏版

倭文庫十四編

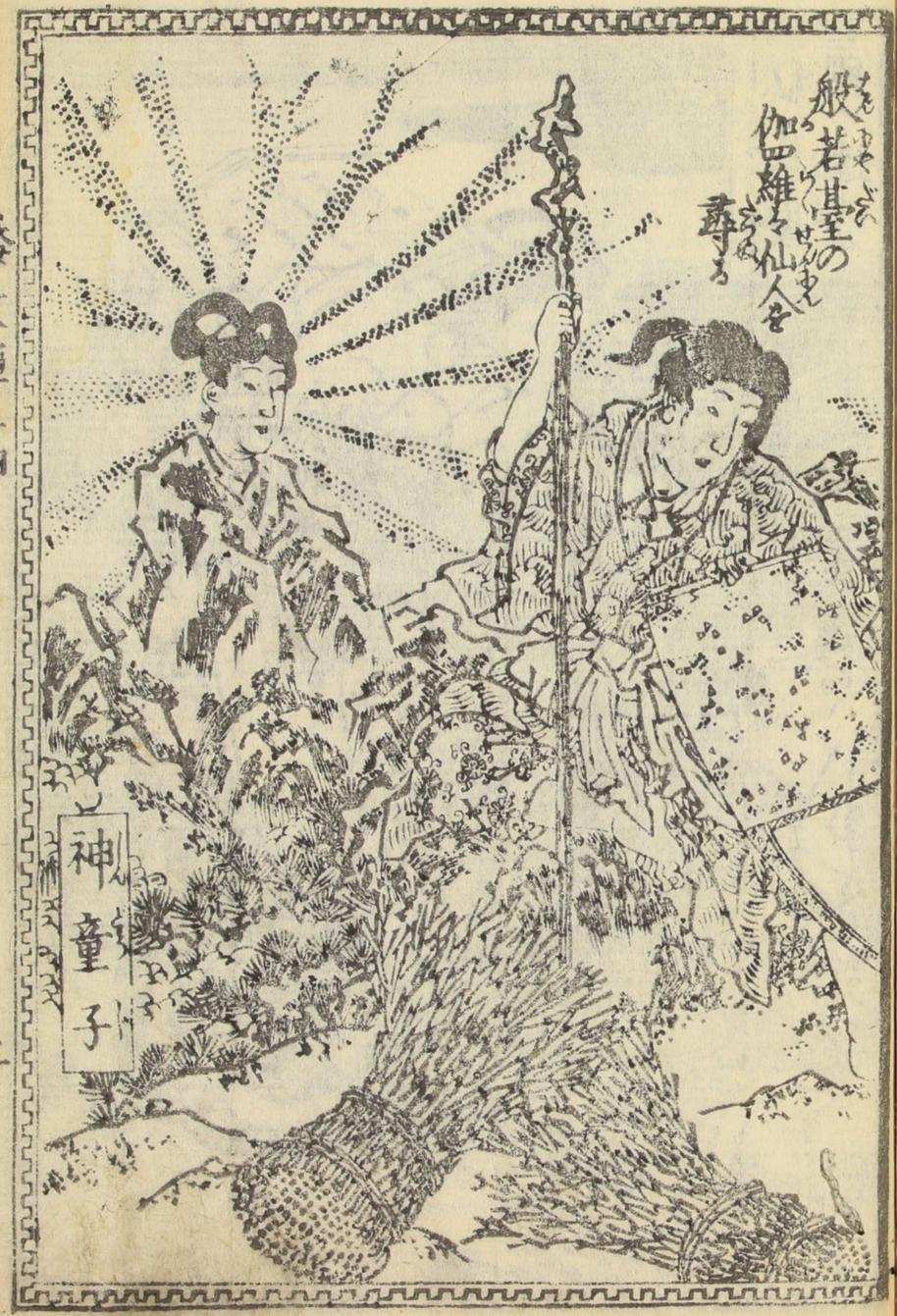
上

釋迦八相倭文庫十四編之序

夫如來大悲の法雨ハ五天竺ニ滅ひて漸震旦ニ漫り四夷ニ溢
れ出て　吾朝ニ流れ今在世と去ること二千八百餘年ニ至るまで
遺法の弟子達大教を宣揚し〳〵て上は貴人高家より
下ハ万民漁夫樵夫鳥獸魚鼈ニ至るまで法雨の甘茶を嘗
ぬ人なしこれ予も其甘茶を嘗て唯夢茶苦茶と甘口ニ
人を茶ふさる戯作の業ハ佛を穢し徒夫と誹謗を
笑ふまでもなく鬼角浮世ハ釋迦の道楽寺鼻の
下喰殿の建立也

嘉永三庚戌年
孟春吉旦發行

悉達太子
檀特山に立出て
阿維羅仙人

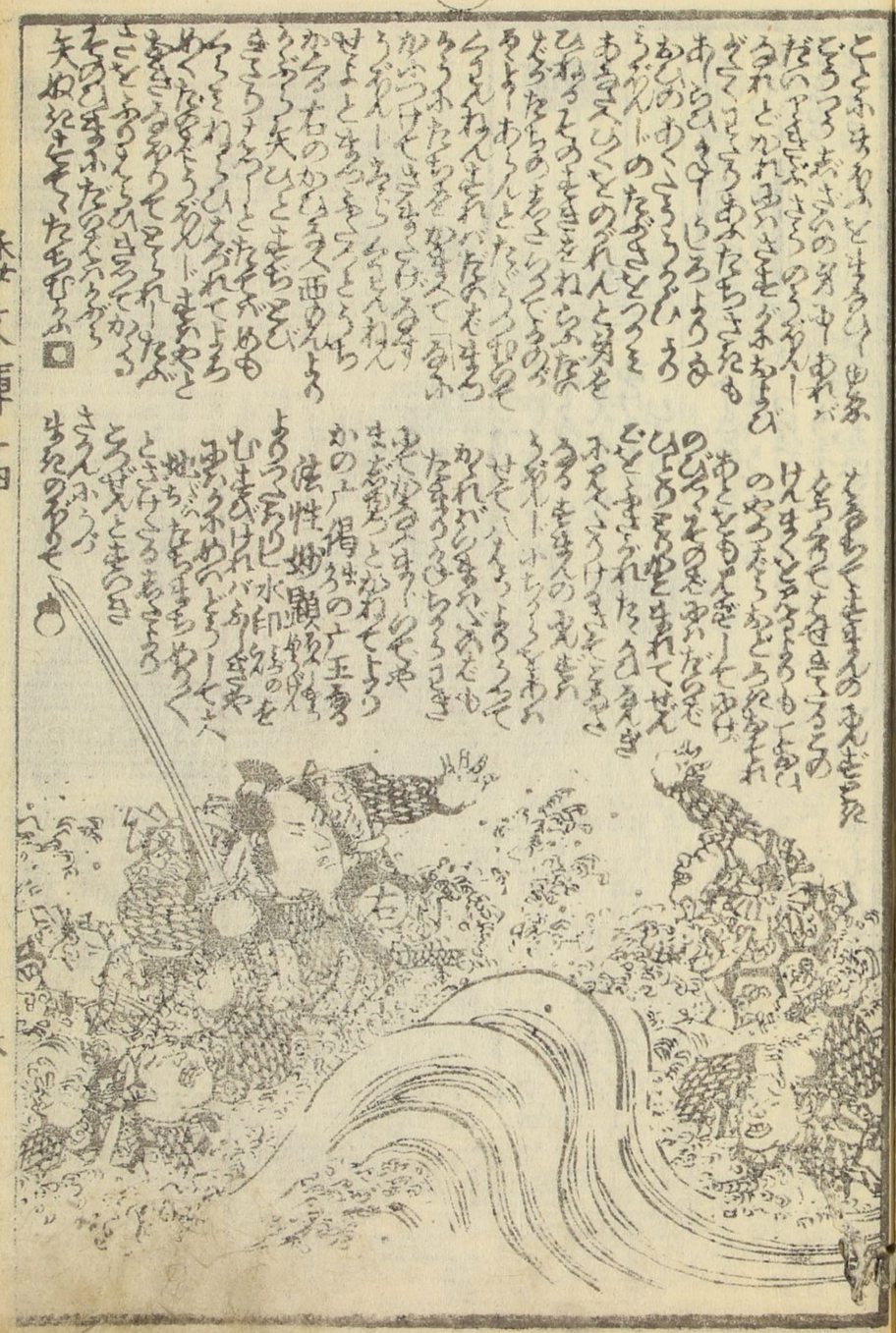

般若菩薩の
伽維羅仙人を
尋ぬる
神童子

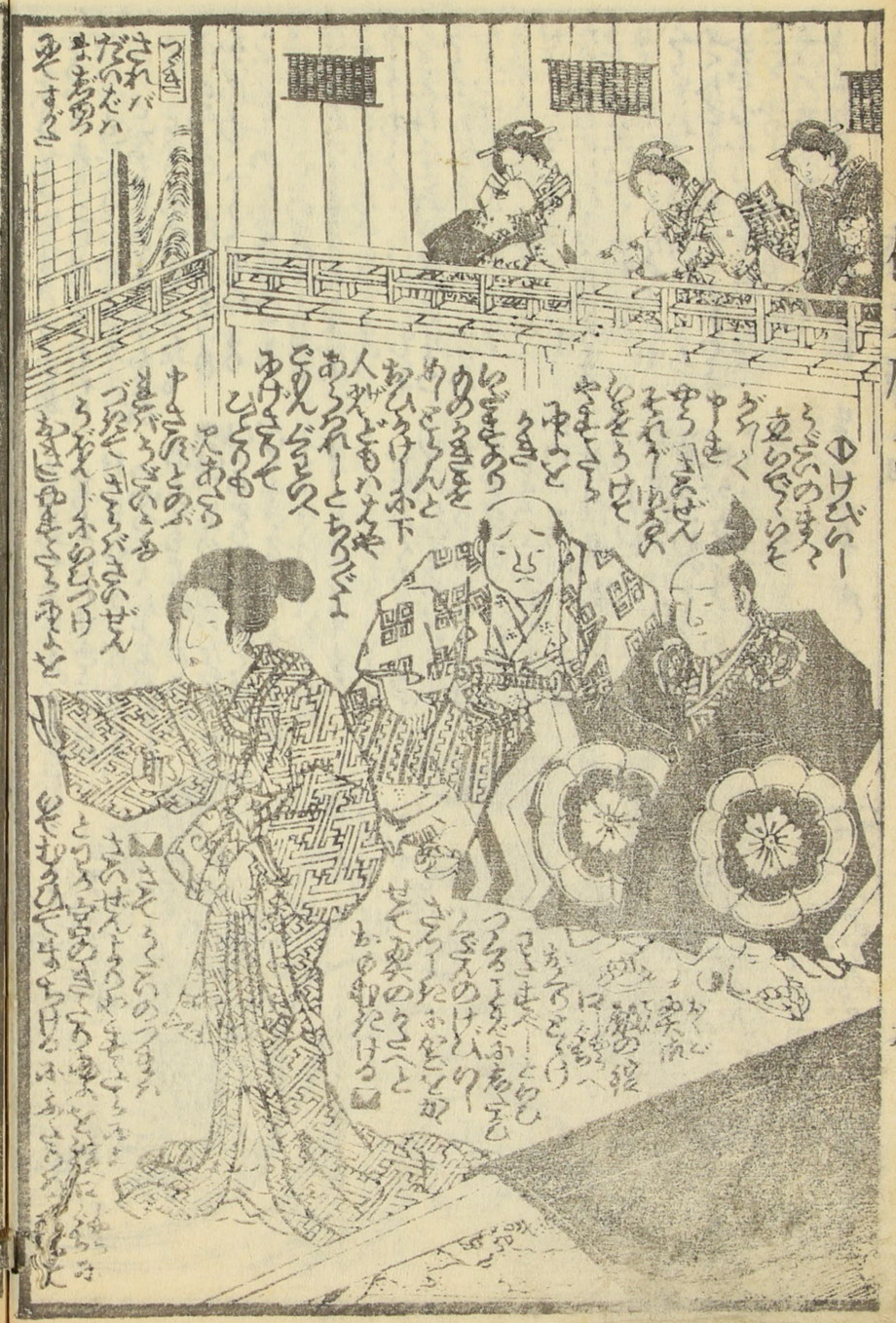
私良摩國の達婆
耶輸陀羅女の侍女

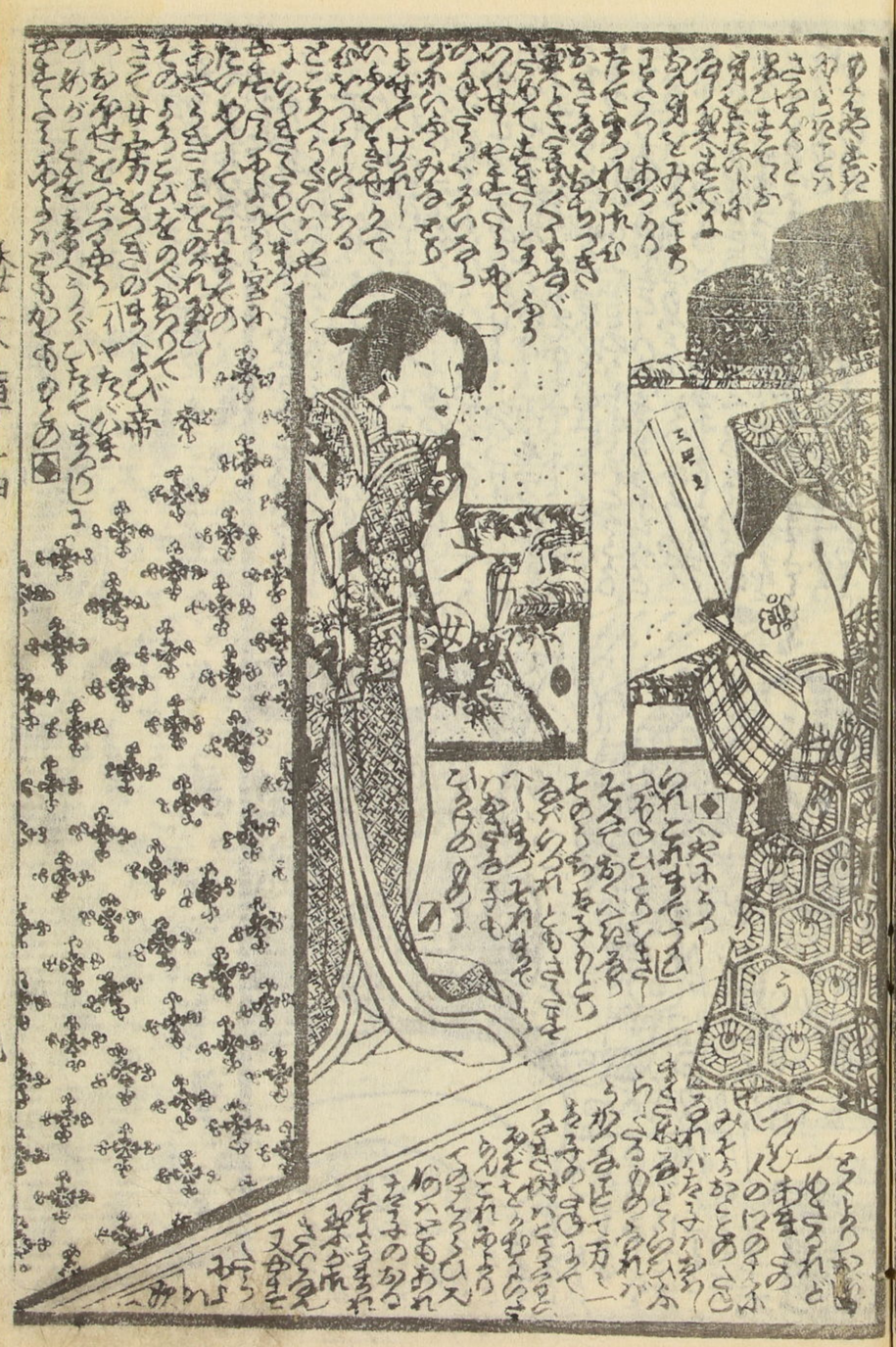
太子非人と成さんとして耶輸陀羅女を棄ふ
耶輸陀羅維女

西門のうち

月本







應賀作

豐國画

安政三年丙辰春新板目録

倭文庫　三十四編　三十五編　三十六編　三十七編　万亭應賀作　陽齋豐國画

赤松譚　九編　十編　如淵外史作　同画

重井菱　六編　七編　為永春水作　同画

譚柄璃璃蕣　四編　五編　西澤一鳳作　勇齋國芳画

茶番案文　全冊　万亭應賀作　陽齋豐國画

神代そだち　三編　四編　同　作　勇齋國芳画

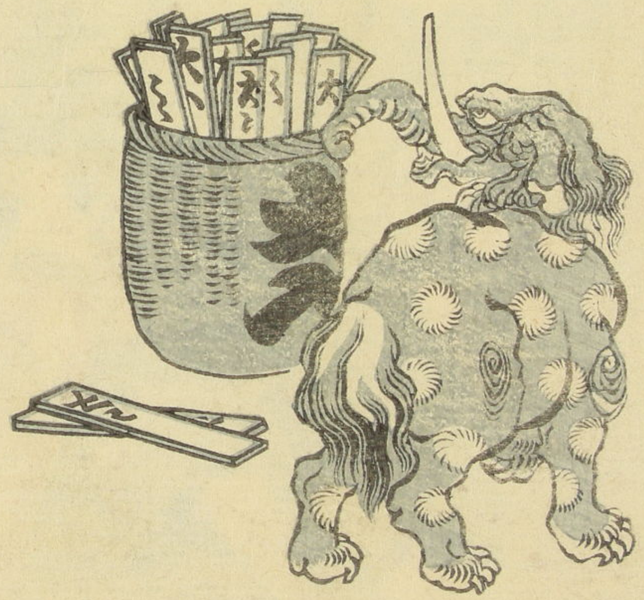
金重本類錦繪人形　上州屋重藏

万亭應賀作
一陽齋豊國画
下
錦重堂版

倭文庫（やまとぶんこ）十四編

万亭應賀作

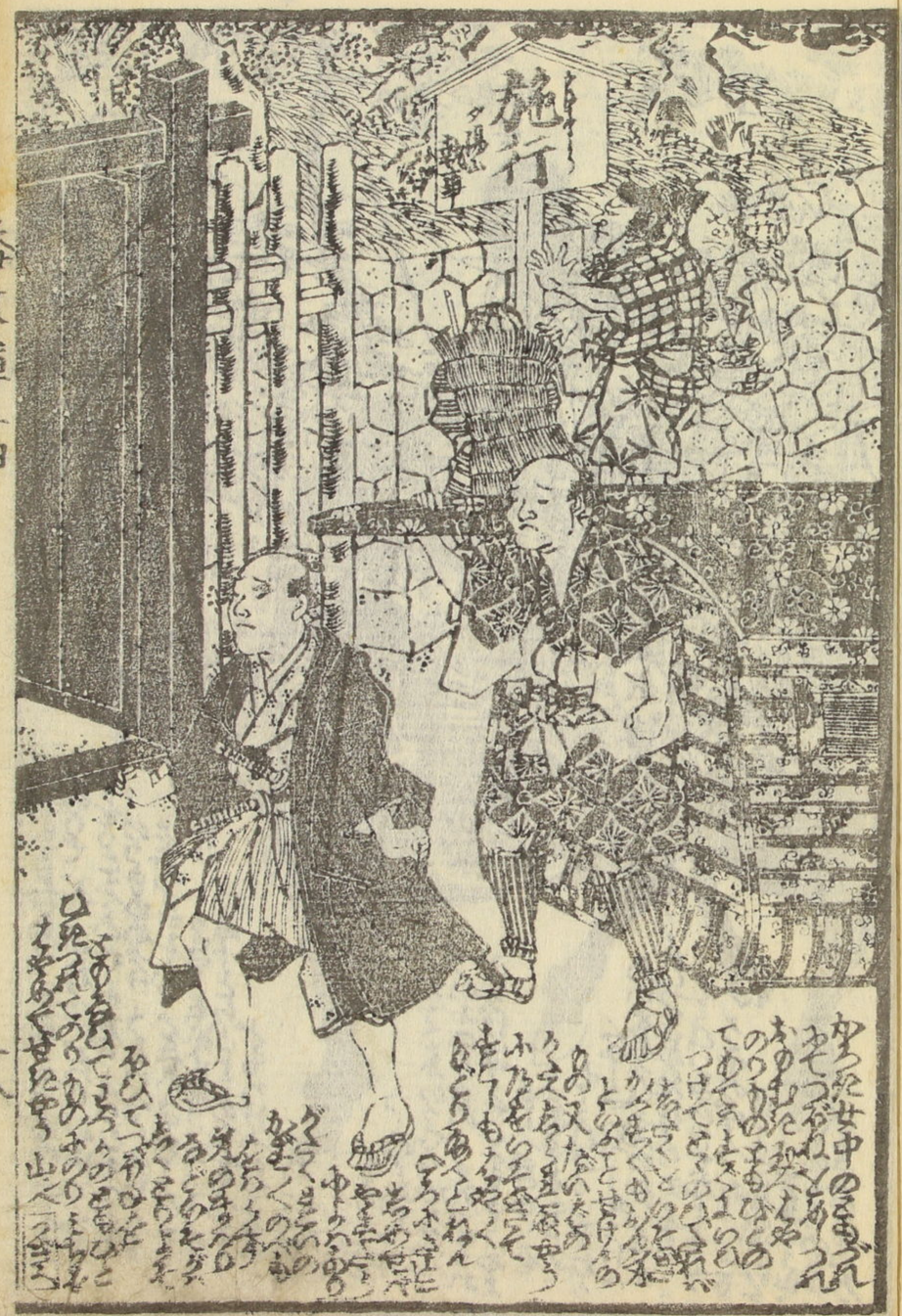
一陽齋豊國画



彫師

上野屋板

下のまき


施行

万亭應賀作 一陽齋豊國画

倭文庫出世双六 万亭應賀作 一陽齋豊國画

春の手遊 将棋双六 同 歌川貞房画

男女振合 役替双六 同 一陽齋豊國画

大寶御江戸圖 極上摺 奉書六枚半續

清元稽古本 初編 二編 出板

常磐津懐中本 初編 二編 三編 四編 追々出板仕い

極上摺百枚揃 擬百人一首 一陽齋豊國合 勇齋芳重筆 立齋廣重